

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム蒼月
所在地	西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成21年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの持っている力を引き出して行けるよう援助していきたいと考えている。一緒に行動していく中で、利用者が何を考え、何をしようとしているかを理解するために、すぐに手を出さず、待つ姿勢を大切にしている。地域の方に気軽に立ち寄ってもらえる場としていきたいため、毎年納涼祭を開催し、理解に努めている。医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問を受けている。医師の月2回の往診や、協力医療機関との毎日の状況報告などで、健康面にも配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりをしっかりと把握し、利用者の思いや自由を妨げないよう、安全に配慮しながらケアを提供している。また、管理者をはじめ職員一人ひとりが、家族からの厳しい意見であっても真摯に受け止め適切に対応する気持ちや体制が整っている。県内でも有数の米の産地にちなんで、居室の名称を米の銘柄や米を原料としたお菓子の名称としているなどユニークである。ホーム内にはゆったりとした落ち着いた雰囲気があり、利用者も穏やかに生活している様子がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム蒼月
(ユニット名)	第1ユニット
記入者(管理者)	
氏名	浮村 祐政
評価完了日	

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営法人の運営理念をもとに、各ユニットでの方針を作り、個人の年間目標も掲げている。共有についてできていない部分もあるため、話し合いの場を増やしていく。</p> <p>(外部評価) 法人、ホーム、各ユニットごとにそれぞれがつながりを持った理念があり、さらに一人ひとりの職員が理念を実践するための目標を立てて日々のケアを提供している。また、カンファレンス等で理念や目標の見直しも職員全員で行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事への参加や納涼祭などを行い、地域の方と交流を持つよう努力している。散歩時などあいさつを交わしているが、もっと地域に溶け込めるようどんどん出かけていきたい。</p> <p>(外部評価) 地域のお祭りや行事、公民館活動等を通じて交流が広がっている。また、近くの保育園や小学校の運動会や文化祭等を見に行くなどもしているが、日常的なつきあいができているとまでは言えない。</p>	地域の役員からの相談を受けるなど頼りにされてきており、地域におけるホームの役割を明確に打ち出し、積極的な関係を構築していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 電話等で相談を受けたりすることもあるが、こちらから進んで行えていないため公民館の方や運営推進会議員等と協力しながら活かしていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 意見等を文書に残し、閲覧できるようにしている。行事や防災について参考にしていることが多い。	
			(外部評価) 利用者や家族、民生委員等に参加してもらい、活発な意見交換が行われている。会議メンバーにも行事のスタッフとして参加してもらい、意見や次回のアイデアをもらってサービス向上に活かすよう努めている。	議題によっては、専門的な意見をメンバー以外の専門家に求めることが必要になってくることもあるので、積極的に多彩な職種との関係づくりをすすめ、さらにサービス向上に活かしていくよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度を利用している方もおり、近隣の市町の職員とも相談しながら、援助方法を考えている。	
			(外部評価) 成年後見制度を利用している利用者の困難事例の相談や援助方法について連絡し合う等、良好な関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 制限を設けると、精神的に不安定になりやすいということを職員も理解しており、安全に配慮して見守っている。	
			(外部評価) 各階の出入り口にはチャイムを設置しているが、職員は利用者の様子を常に確認している。また、エレベーターでの乗降は自由に行えるため利用者自らの意志で戸外に出ることが可能である。待たせないケアを実践しており、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 閉鎖的になると起こりやすい問題であるため、地域の方も気軽に立ち寄れるような場にしていきたい。勉強会など開催できていないので、取り組んでいく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用している方もおり、関係者と協力しながら援助している。職員全員が仕組みなど理解できるようにしていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に説明を行い、入居してからも疑問点などその都度解消できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見をノートに記し、職員全員が把握できるようにしている。会議などでも周知し、改善していくよう努めている。 (外部評価) 意見を記録するノートを作っており、家族の来訪時に意見や要望を聞き取り、対応した職員が記入する仕組みになっている。またそのノートは全職員が必ず確認するようにしており、必要に応じて職員会議で検討するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 会議等で意見をまとめている。しかし、もっと職員の個性を活かした仕事のあり方が構築できないかと模索している。 (外部評価) 職員は、管理者に自由に意見を言うことができ、管理者も職員からの意見を法人内の管理者の会議で提案したり、代表者に申し入れすることもできる。代表者や管理者は、職員の意見や提案を大事に考えており、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務帯で負担がかからないよう調整している。資格取得により、賃金面でも考慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年1度法人内全体での研修を行っている。会議やその都度研修の機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 合同で救急講習を受けたり、今後、緊急時の協力体制をもっと深めるために、近隣の施設職員や各区長と協議を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 理解に努めており、日々の気持ちの変化や体調なども考慮しながら接している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に家族の思いを聞きだすことはもちろん、家族会や面会時等でも思いを引き出せるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要と思われることをケアプランとして提示し、同意を得て実施している。本人、家族との関わりの中から他のサービスも必要となれば相談して実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に行いながら、一緒に楽しめるようにしている。利用者同士の関わりが持てるよう、職員が仲立ちとなって接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 少しでも利用者と家族との関係を深めるために、家族会や納涼祭で一緒に楽しんでもらったり、面会や外泊など自由にできるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きたい時に行けるようにしたり、招いたりしている。公民館での活動など、関係が途切れないよう参加している方もいる。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、自宅や昔住んでいた所等に出かけて馴染みの人や場所との関係を保つ努力をしている。また、遠方から来ている利用者は友人に手紙を送る等、古くからの馴染みが途絶えないように支援し、さらに新しい馴染みができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒にできることを職員も間に入って行ったり、楽しんで行えるよう考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 移住先への情報提供はもちろん、本人、家族の不安な気持ちが少しでも軽減できるよう、連絡を取り合ったり出向いたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いを引き出せるよう、本人や家族が落ち着ける場所で聞き取るようにしている。 (外部評価) 入居時には可能な限り自宅を訪問して本人や家族、友人、関係者等から詳しく聞き取り、記録にも残している。入居後も担当職員が利用者本人から聞き取ったり、思いを伝えられない利用者については、家族や友人から聞き取った情報を基に、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 可能な限り自宅に赴き、思いはもちろん今までの暮らし方の把握にも努めている。親戚や友人からの情報も参考にしながら検討している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日中と夜間の状況を申し送りながら把握し、一緒に行動しながらその人の持っている力を引き出せるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の設定期間のみでなく、月1度の会議でも実施状況や問題点を話し合うようにしている。本人、家族からの要望はその都度応えられるよう努力している。 (外部評価) 計画の原案は担当者が作成し、会議において他の職員等の意見を参考に手直しをしている。定期的な見直しのほか、状況に応じて随時見直しをしている。家族等の意見も取り入れることができるよう、手紙や電話で働きかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録や別冊のノートで職員全員で把握するよう努め、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険で支えきれない部分を関係者と協力しながら本人が安心して生活できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館の活用や、地域に出かけていくことで、地域の方にも支えていただきながら楽しく生活できるよう援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者・利用者のご家族の希望する医療機関で医療 が行える様にしている。 また当グループホームの係りつけの主治医による医 療が行えるなどの説明を行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を受診することが できるようにしている。また、法人代表者が医師であり 定期的な診察も行い、利用者の健康管理に十分努めて いる。通院は基本的に職員が同行しているが、必要に 応じて家族にも同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日、協力医療機関への報告と、週1回の医療連携看護 師の訪問により、情報交換は密にできている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関から月2回の往診や週1回の看護師訪問で 利用者の状態把握は頻繁に行われている。他の医療機 関への入院でも、連絡を取り合いながら情報交換して いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居前に看取り指針を提示して説明している。状況に 応じてその都度家族、医療機関と相談しながら本人に とって良い方法を検討している。 (外部評価) 入居時に、本人及び家族に看取りについての説明を十分 に行い、マニュアルや医療との連携体制も整っている。 法人代表者が医師であるため、利用者や家族は安心 感を持っている。	直接ケアをしている職員は、少なからず終末期ケアに 対して不安を感じているので、さらに研修や勉強会を 積極的に行うことで不安を取り除き、今以上に利用者 や家族が安心して終末期ケアを受けることができるよ うな体制づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員の協力により、救急講習を受けるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防立会いで訓練を行っている。運営推進会議で地域の方と一緒に訓練を行うことにより、協力体制を整えられるよう努力している。 (外部評価) 消防署の協力を得ての年2回の訓練以外にも、ホーム独自で夜間を想定しての火災訓練を行っている。地域の消防団との協力関係はできているが、地域との協力体制が整っているとまでは言えない。	地域に協力を求めるばかりでなく、ホームが地域の一員として協力できることについても検討し、地域と相互に協力し合える体制を築いていくよう取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄声掛けは本人の耳元で行ったり、入浴は1対1で行うなど配慮している。 (外部評価) 着替えや排せつに関することについては、職員は言動に十分配慮し、ケアを行う場合は自室やトイレ等、人目に触れないところで行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 可能な限り希望したときにすぐに実現できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 特に時間を決めず、その時の状況に応じて対応している。その人のペースを邪魔しないよう待つ姿勢を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望に応じた散髪の援助や着替えるときの服など選べるように配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に行えるよう、一緒に楽しめるようにしている。男性の方も他者の姿を見て、一緒に片づけを行うこともある。	
			(外部評価) 落ち着いた雰囲気の中で、利用者の中に職員が座って話題を提供しながら会話を楽しんで食事できるよう支援している。後片付けも利用者ができる範囲で無理のないよう職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量は記録に残し、把握できるようにしている。水分摂取量の少ない方には、少しずつこまめに渡すなど配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後必ずできているわけではないが、最低限就寝前に行えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居時や退院後などオムツを使用していた方も、排泄パターンをつかむことによって、普通のパンツで過ごせるようになった方もいる。排泄はトイレで行うという意識が職員にもあるためできていると思う。 (外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握したうえで、時間を見て声かけや誘導を行っている。職員は、利用者の変化を見逃さないよう常に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量を増やしたり、散歩等運動を勧めたり、トイレで座ってもらうことでなるべく自然排便できるように配慮している。排便チェックを行っており、どうしても出ない場合には医療機関へ相談し、指示を仰いでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に時間等決めておらず、毎日希望時に入る方もいる。拒否の多い方のみ時間をおいて再度勧めるなどこまめに声掛けをしているが、無理強いはいしていない。 (外部評価) 毎日入浴できるような体制を築いている。入浴拒否のある利用者には無理強いせず、時間をずらして声をかけてみる、誘導する職員を替えてみるなど対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) フロアにたたみコーナーがあり、いつでも横になることができる。自室で休む場合も気温に注意しており、快適に過ごせるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療機関と相談しながら服薬について注意を払っている。誤薬等無いよう、1人1人に手渡し確認している。新しい薬が出れば情報書ももらい、内容等把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 身体的に悪影響がない限り、特に制限は設けておらず、好きなことができるよう援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行きたいときに行けるよう援助している。	
			(外部評価) 同敷地内にあるデイサービスの車を利用しての外出支援の場合は時間に制約はあるが、可能な限り利用者の希望に添って帰宅やお墓参りに個別に対応している。また、花見や買い物等にも積極的に出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時、行えるよう援助している。預かり金については毎月出納帳のコピーと領収証の原本を家族に送付して確認してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでもできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除や換気は毎日行い、玄関やベランダに花を植えたりしている。廊下等写真などを飾り、見て楽しめるよう努力している。	
			(外部評価) 建物の2階と3階がホームになっているため、大きな窓から一望できる景色に開放感がある。リビングや廊下もゆったりとした広さを確保している。季節感のある飾り付けや行事の写真等も掲示されており、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) たたみコーナーや居室で仲のよい方同士で会話したり、1回玄関ロビーで過ごす方もいる。居場所の確認は怠らないようにしているが、常に付き添うことは行っていない。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものなら、制限なく持ってきてもらうよう声をかけている。テレビや冷蔵庫など持ち込まれている方もいる。	
			(外部評価) 利用者の希望や状況により、居室に畳を敷くこともできる。備え付けのたんすはあるが、使い慣れた家具等も持ち込むことができ、利用者にとって居心地のよい居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室内でベッドから立ち上がりやすいようにつかまるものを配置したり、音の鳴る物で転倒しやすい方の動きを把握できるようにしている。持っている力を制限しないよう、すぐに手を出したりしないよう気をつけている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム蒼月
所在地	西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成21年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの持っている力を引き出して行けるよう援助していきたいと考えている。一緒に行動していく中で、利用者が何を考え、何をしようとしているかを理解するために、すぐに手を出さず、待つ姿勢を大切にしている。地域の方に気軽に立ち寄ってもらえる場としていきたいため、毎年納涼祭を開催し、理解に努めている。医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問を受けている。医師の月2回の往診や、協力医療機関との毎日の状況報告などで、健康面にも配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりをしっかりと把握し、利用者の思いや自由を妨げないよう、安全に配慮しながらケアを提供している。また、管理者をはじめ職員一人ひとりが、家族からの厳しい意見であっても真摯に受け止め適切に対応する気持ちや体制が整っている。県内でも有数の米の産地にちなんで、居室の名称を米の銘柄や米を原料としたお菓子の名称としているなどユニークである。ホーム内にはゆったりとした落ち着いた雰囲気があり、利用者も穏やかに生活している様子がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念は見やすいところ掲示し共有できているがユニットごとの理念は実践できていないところがあるのでできるように努めたい。</p> <p>(外部評価) 法人、ホーム、各ユニットごとにそれぞれがつながりを持った理念があり、さらに一人ひとりの職員が理念を実践するための目標を立てて日々のケアを提供している。また、カンファレンス等で理念や目標の見直しも職員全員で行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 施設行事（納涼祭など）の際には地域の方々に参加を呼びかけたり、入居者と散歩に出かけた際には挨拶をしたりと交流はできていると思う。</p> <p>(外部評価) 地域のお祭りや行事、公民館活動等を通じて交流が広がっている。また、近くの保育園や小学校の運動会や文化祭等を見に行くなどもしているが、日常的なつきあいができているとまでは言えない。</p>	地域の役員からの相談を受けるなど頼りにされてきており、地域におけるホームの役割を明確に打ち出し、積極的な関係を構築していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用者の施設での生活の様子などを新聞にして配布していますが、配布先が家族などで地域に配布できていない。 今後は地域にも配布するようにし、理解や支援の方法を地域の方々にも知っていただけるように努めます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、年間行事や生活状況の報告を行い、外部評価の協力を依頼し、外部評価の結果報告を行っている。 また、地区からの要望や意見などを聞き、支援のあり方についての改善策を考えている。	
			(外部評価) 利用者や家族、民生委員等に参加してもらい、活発な意見交換が行われている。会議メンバーにも行事のスタッフとして参加してもらい、意見や次回のアイデアをもらってサービス向上に活かすよう努めている。	議題によっては、専門的な意見をメンバー以外の専門家に求めることが必要になってくることもあるので、積極的に多彩な職種との関係づくりをすすめ、さらにサービス向上に活かしていくよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 連絡事項など、必要な事意外での接点が少ないように思える。今後は市担当者との連携を図り、相談や連絡を密にして積極的に活用にしたい。	
			(外部評価) 成年後見制度を利用している利用者の困難事例の相談や援助方法について連絡し合う等、良好な関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ職員全員が利用者に声かけや現在の心理状態を聞く事で心身共に配慮する事で身体拘束を行わないように努めている。	
			(外部評価) 各階の出入り口にはチャイムを設置しているが、職員は利用者の様子を常に確認している。また、エレベーターでの乗降は自由にできるため利用者自らの意志で戸外に出ることが可能である。待たせないケアを実践しており、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ一人ひとりに責務や義務を再確認してもらう為にもケアカンファレンスや業務カンファレンスなどで話し合いをしています。 スタッフ全員に利用者の状態を知ってもらうために利用者ノートなどを作成し目を通すように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度などの制度の意義や理解が得られるように、勉強会を行うように努めたい。 また、研修等にも参加する機会を増やすように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査や入居契約時に利用者・家族と話し合いを行い、契約の説明も行っている。 入居後のご家族との信頼関係を築くために、面会時や電話等を通じて情報交換を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けたり、家族会等で意見交換を行ったりし、それらを記録に残すとともに、運営に反映させるように努めている。 もっと多くの意見交換を行える場を設ける事で、よりよく意見交換ができるようにしたい。 (外部評価) 意見を記録するノートを作っており、家族の来訪時に意見や要望を聞き取り、対応した職員が記入する仕組みになっている。またそのノートは全職員が必ず確認するようにしており、必要に応じて職員会議で検討するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案は個々に求められ反映されているように思える。 (外部評価) 職員は、管理者に自由に意見を言うことができ、管理者も職員からの意見を法人内の管理者の会議で提案したり、代表者に申し入れすることもできる。代表者や管理者は、職員の意見や提案を大事に考えており、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務のローテーションの関係もあり十分な休養が来ていないと思う。 勤務に無理が掛からない範囲内で十分休養できる様に勤務のローテーションを行いたい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会やフォーラムに参加できるように費用の負担をしているが研修会等の参加はあまり出来ていない。 スタッフ職員の個々の能力に応じた研修会への参加を促すようにする。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社内の系列のホームとの交流が月1回開催されているが管理者だけでスタッフ職員間では交流する機会があまりない。 他のホームの管理者に相談するも、決まったホームの管理者だけになっているため、分け隔てなく他のホームの管理者や職員との交流が出来るように努める。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 常に一人ひとり声かけをし、言いたい事を伝える範囲に努めている。 不安な事や求めている事を振払できる様に努めた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時などに声をかけをし、努力はしている。 また、事前調査時に、利用者本人・利用者ご家族から十分に話を聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時にはもちろんの事ではあるが、他のサービスも本人・ご家族に応じた物がある場合、出来る限りの事はしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活するうえで、相手の事をできるだけ多く知り、毎日を楽しく過ごせるように、話を良く聞き、共に喜んだり楽しんだりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者を介して、共に感じる事や、実情の把握等、話し合いを密にすることで利用者がよりよい状態で生活できるように努めたい。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出を促すも外出をされなかったりと少し難しい面もあると思うが、馴染みの人に会ったり、その場所に行くことは支援しできるだけいけるように努めている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、自宅や昔住んでいた所等に出かけて馴染みの人や場所との関係を保つ努力をしている。また、遠方から来ている利用者は友人に手紙を送る等、古くからの馴染みが途絶えないように支援し、さらに新しい馴染みができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が孤立しないよう、積極的に声をかけをしたり、利用者同士の間に入り、関わりを持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了した後は、なかなか相談や支援はできていないと思われる。 行事等の際は連絡をするなどをするように努めたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本人やご家族から家庭での生活状況などから利用者にとって多くのサービスが提供できる様、当ホームに入居されてからの表情や動作から少しの変化を読み取る能力を身につけるように努めている。 (外部評価) 入居時には可能な限り自宅を訪問して本人や家族、友人、関係者等から詳しく聞き取り、記録にも残している。入居後も担当職員が利用者本人から聞き取ったり、思いを伝えられない利用者については、家族や友人から聞き取った情報を基に、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査で少しでも多くに情報を利用者本人やご家族から得られるように努めている。 また、事前調査での情報だけでなく当ホームに入居してからの様子も参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを設け、意見を出し合い一人ひとりについて介護計画を作成し、それに向けて努めている。 ケアプラン作成後も変化があれば随時プランの変更を行い、利用者に合ったケアプランが提供出来る様に努めている。	
			(外部評価) 計画の原案は担当者が作成し、会議において他の職員等の意見を参考に手直しをしている。定期的な見直しのほか、状況に応じて随時見直しをしている。家族等の意見も取り入れることができるよう、手紙や電話で働きかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務日誌など日々の記録を行い勤務交代時に申し送りを行っている。 また、利用者用個別送りノートやスタッフ用送りノートなどで情報の共有が出来るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 現段階では十分に事業所の多機能を活かしているとはいえない。現段階で行っているのは利用者に応じた福祉用具の支援程度である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の郵便局まで葉書や手紙を出しに行ったり、利用者の希望で美容院へ行くなどの地域との交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者・利用者のご家族の希望する医療機関で医療 が行える様にしている。 また当グループホームの係りつけの主治医による医 療が行えるなどの説明を行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を受診することが できるようにしている。また、法人代表者が医師であり 定期的な診察も行い、利用者の健康管理に十分努めて いる。通院は基本的に職員が同行しているが、必要に 応じて家族にも同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎朝、契約を結んでいる医療機関より、利用者の状 態を確認する連絡があり日々の状態を報告している。 また、スタッフ職員の配置の際、看護師を各階に配 置している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合、面会に行く事で不安を軽 減し、安心してもらえる様に配慮を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時に、利用者・利用者ご家族の意向を聞き、医療連携体制の同意を得るようにしている。 また、利用者の状態によりその都度、主治医や利用者ご家族と相談しながら方針を共有している。 (外部評価) 入居時に、本人及び家族に看取りについての説明を十分に行い、マニュアルや医療との連携体制も整っている。法人代表者が医師であるため、利用者や家族は安心感を持っている。	直接ケアをしている職員は、少なからず終末期ケアに対して不安を感じているので、さらに研修や勉強会を積極的に行うことで不安を取り除き、今以上に利用者や家族が安心して終末期ケアを受けることができるような体制づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 入居契約時に、利用者・利用者ご家族の意向を聞き、医療連携体制の同意を得るようにしている。 また、利用者の状態によりその都度、主治医や利用者ご家族と相談しながら方針を共有している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練を実施した事はあるが地域の人々の協力を得られる様に働きかける事が出来ていない。 (外部評価) 消防署の協力を得ての年2回の訓練以外にも、ホーム独自で夜間を想定しての火災訓練を行っている。地域の消防団との協力関係はできているが、地域との協力体制が整っているとまでは言えない。	地域に協力を求めるばかりでなく、ホームが地域の一員として協力できることについても検討し、地域と相互に協力し合える体制を築いていくよう取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーは大切にしているつもりだが、言葉かけ等に少し反省すべき時もある。 記録等も頭文字で記入している。 声かけや記録の記載方法などの勉強会を行い、充実した記録が残せるように努めたい。 (外部評価) 着替えや排せつに関することについては、職員は言動に十分配慮し、ケアを行う場合は自室やトイレ等、人目に触れないところで行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何度も何度も繰り返し、職員が質問に対しては同じ事を言って納得する様努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合ったペースで支援はしているが、希望に沿えているかどうかはわからない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔感を保ち、髪をとかしたり、髭をそったりなどスタッフ職員で出来ることは行っている。 また、希望があれば理髪店に行くことも可能にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みを聞き、献立に取り入れ出来る人には、準備を御願いし、一緒に食事をしている。	
			(外部評価) 落ち着いた雰囲気の中で、利用者の中に職員が座って話題を提供しながら会話を楽しんで食事できるよう支援している。後片付けも利用者ができる範囲で無理のないよう職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を多く取り入れ、入浴後の水分補給、食事の量やバランスを考えて摂取できるようにしている。 利用者によっては食事のムラがあるので、毎食バランスよく食事が出来ているか食事量の確認を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは一人ひとりに声かけをし、入れ歯は入れ歯洗浄剤等を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は声かけをし、出来る限り排泄が出来る様に誘導している。 夜間は自分でトイレに行かれる利用者は見守りを行い転倒に気をつけている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握したうえで、時間を見て声かけや誘導を行っている。職員は、利用者の変化を見逃さないよう常に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には腹部マッサージを行ったり、適度の運動を行う様に努めている。 また、便秘の続く利用者は便秘薬を服用し、便秘が続かないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) いつでも、入浴が出来る様（気持ち良い事だと知って頂く様）にタイミングに合わせた声かけをしている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるような体制を築いている。入浴拒否のある利用者には無理強いせず、時間をずらして声をかけてみる、誘導する職員を替えてみるなど対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりがその時々に応じて、気持ちよく休息したり眠れたり出来る様に努めている。 利用者によっては、夜間眠れない利用者には眠剤等を使用し、安心して気持ちよく休められるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示、服薬される薬の説明を確認し服薬を行っている。 スタッフ職員全員が服薬されている薬に対する知識を高める為にも、薬剤関連の辞書などを常備し自分で調べられるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る事は声かけをし、一緒に作業をしてもらっている。 (洗濯物干しや洗濯物をたたむ、調理の下ごしらえなど)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの介護がいる為、なかなかその日の希望通りに戸外に出かける事ができない。 今後は日常的な外出も検討したい (外部評価) 同敷地内にあるデイサービスの車を利用しての外出支援の場合は時間に制約はあるが、可能な限り利用者の希望に添って帰宅やお墓参りに個別に対応している。また、花見や買い物等にも積極的に出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理はホームに金庫で預かり、必要な時に管理者に相談し金庫より出して使用できるようにしている。 、利用者本人が現金の所持を希望している時は、利用者本人とご家族と相談し、少ない金額を所持してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話はいつでも使用できるように配慮している。 書く事の支援は時々進めているが、文章になかなかならず困難な為、書きたい内容を尋ねる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間作りは居心地の良く過ごせる様に、いつも清潔し気持ち良い様にしている。 台所の調理器具は電気製品が多くなり利用者の馴染みにくくなってしまったが、調理の下準備や使用した食器を洗ってもらうなどできる事をしてもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 建物の2階と3階がホームになっているため、大きな窓から一望できる景色に開放感がある。リビングや廊下もゆったりとした広さを確保している。季節感のある飾り付けや行事の写真等も掲示されており、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用のフロアには畳のスペースがあり、自由に思い思いに過ごせる様に空間が作られている。 利用者同士で利用者の居室を訪問しながらコミュニケーションが取れている。 また独りで過ごしたいときは自室で過ごせるように自分のペースで過ごせるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居契約時に、入居するにあたって必要な物を説明する際に利用者本人の使い慣れた物を持ってきても構わないことは説明は行っている。 ご家族が宿泊出来る様に配慮的な事が出来ていない。 利用者の居室には本人の希望している物や使い慣れた物を置くようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望や状況により、居室に畳を敷くこともできる。備え付けのたんすはあるが、使い慣れた家具等も持ち込むことができ、利用者にとって居心地のよい居室になるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 混乱を防ぎ、スタッフ職員が利用者一人ひとりに対し、バラバラの返答をしないように心掛けている。 各居室に名札を目の高さに設置し見やすいようにしている。</p>	